敷領遺跡 第 30 次発掘調査 ～遺跡見学会資料～

時遊館 COCCO はしむれ
×インキャラクター　タイム博士

なぜこんなところで発掘調査？

指宿市内にはおよそ 120 か所の遺跡があります。時代は旧石器時代から江戸時代まで様々。私たちが暮らす指宿の地に古くから人が住んでいた証拠です。

遺跡の範囲内で工事を行う場合，「文化財保護法」という決まりにのっとり，事前の発掘調査が必要となります。発掘調査は，遺跡の内容を明らかにすると同時に，「遺跡の破壊」にも繋がります。遺跡を保存するためには，「掘らないこと」が一番。しかし，現代を生きる私たちの生活も大事。そのため，仕方なく壊されていく遺跡を記録し，未来へ情報を残すこと，それが「発掘調査」です。

指宿市では「市営敷領団地建て替え事業」に伴い，平成 27 年度から発掘調査を実施してきました。すでに第一期工事は完了しています。今回は第二期工事に先立つ発掘調査の成果を皆様にご紹介したいと思います。

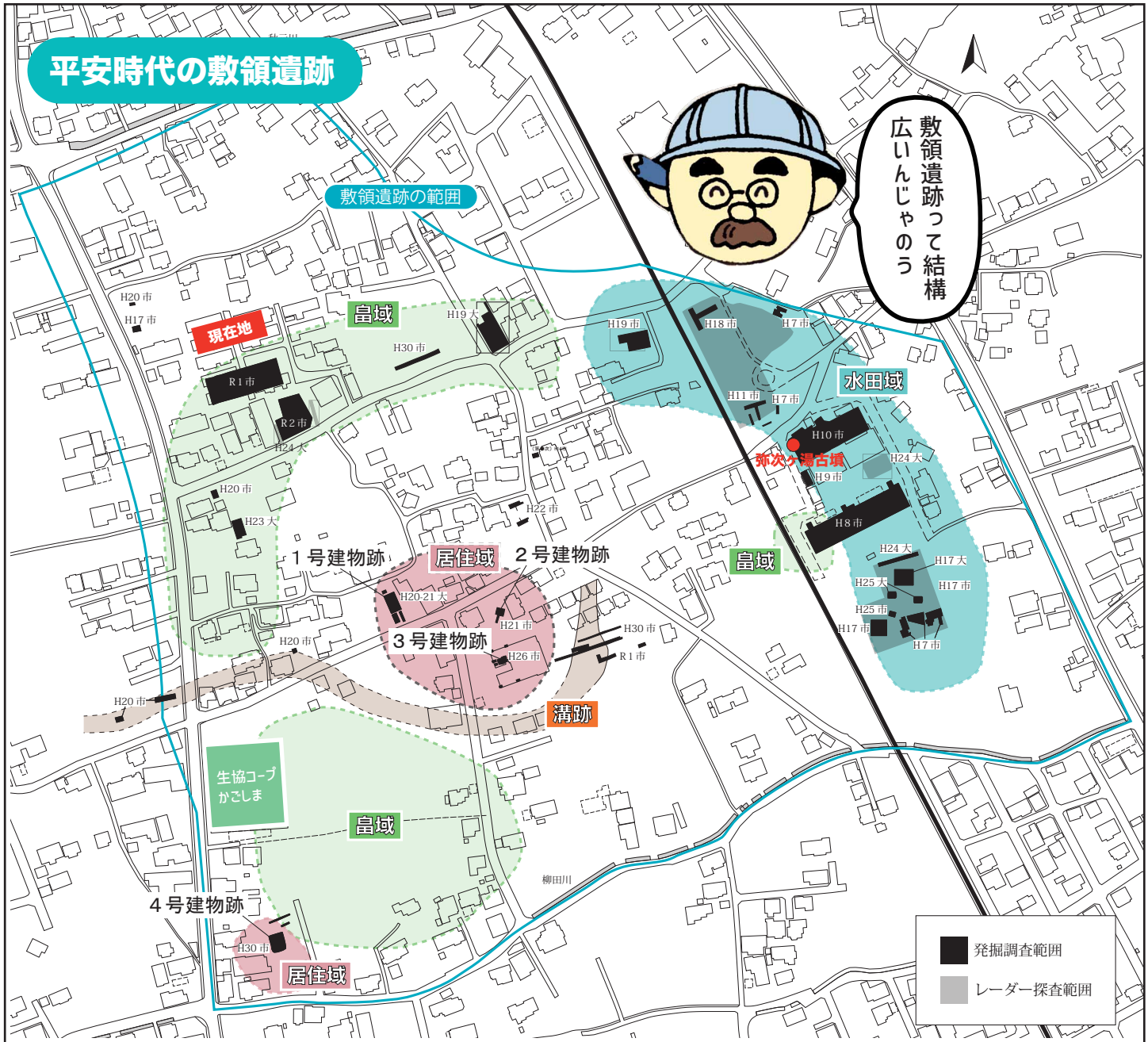
敷領遺跡はどんな遺跡？

敷領遺跡は，弥生時代から平安時代までの集落遺跡です。とくに平安時代には，建物跡や畠跡，水田跡などが見つかっており，当時の集落景観を復元できるようになっています。また，「鉄製甲臺（てつせいこうだい）」と呼ばれる全国的にも非常に珍しい鉄製品が出土しています。この鉄製品は，五角形をしており，木製の板を納めた箱であると考えられています。その特徴から，古代の亀卜（きぼく）（古代の占い）に使用された道具であると考えられています。古代の政治的意思決定は，占いによることが多く，敷領遺跡で占いに関する遺物が出土したということは，政治的意思決定機関 = 古代の役所？が周辺に存在したことが考えられるのです。

平成８年に出土した鉄製甲臺（てつせいこうだい）

しかし，役所跡などはいまだに見つかっておらず，今後の調査に期待がかかります。

令和元年に出土した鉄製甲臺（てつせいこうだい）



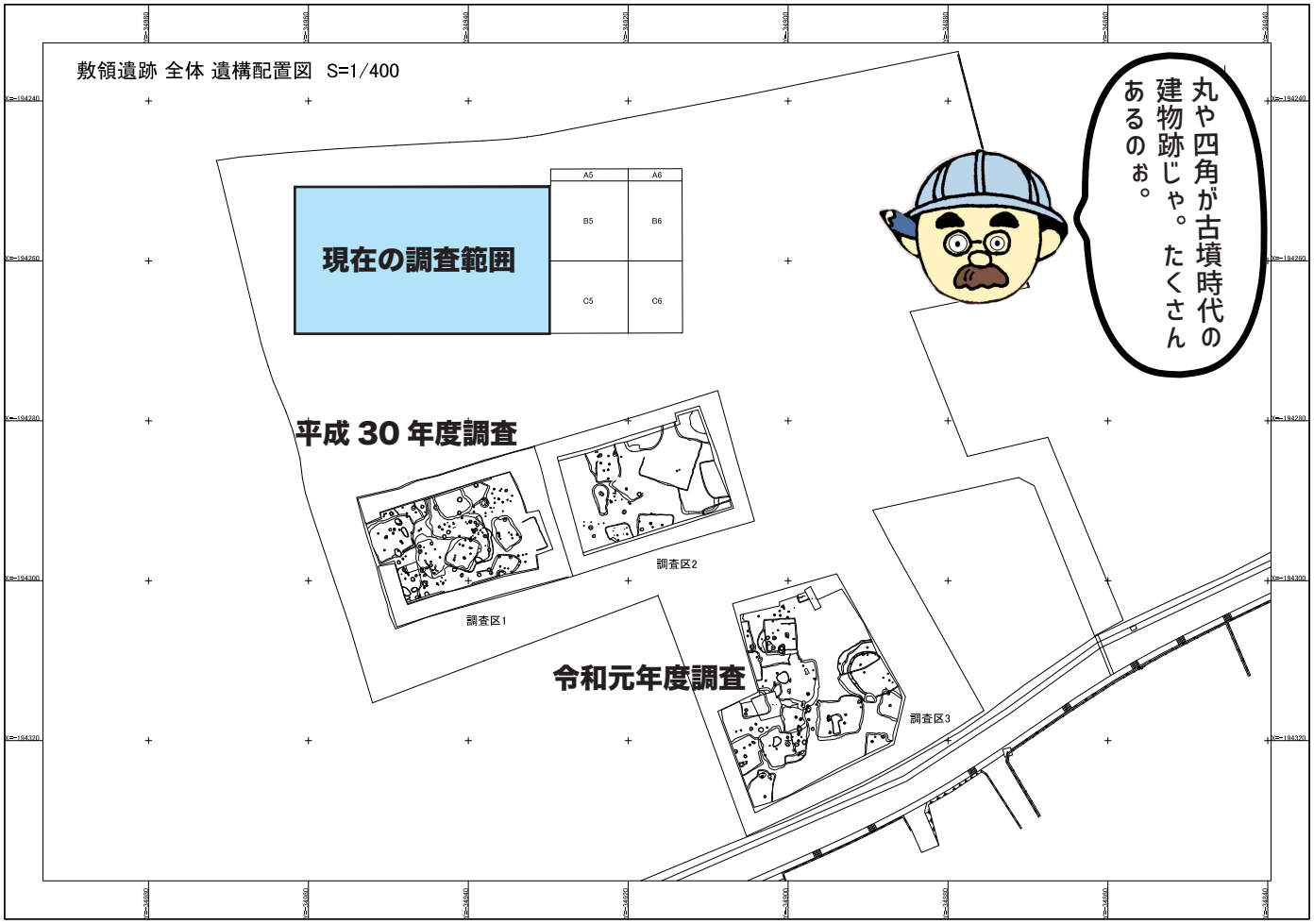
開聞岳の火山灰に埋もれたムラ

敷領遺跡を調査すると必ず見つかる火山灰の層「紫コラ火山灰」。これまでの調査により，この火山灰の下から，古代の建物跡や水田・畠跡が見つかっています。この火山灰は，西暦 874 年 3 月 25 日に降ったことがわかっているので，当時の集落の様子を明らかにする上で欠かせないものになっています。敷領遺跡内では，これまで 4 軒の建物跡が見つかっています。

日本列島最南端の古墳～弥次ヶ湯古墳～

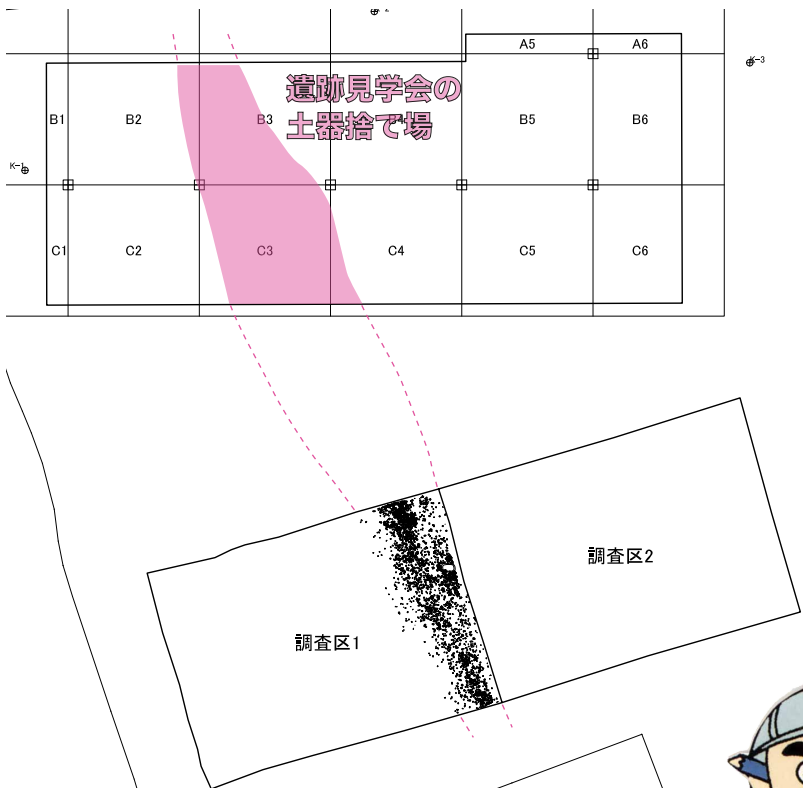
弥次ヶ湯古墳は，日本列島最南端の古墳です。円墳と呼ばれ，上から見た形はまん丸，直径は17.5m もあります。平成８年度に実施された県営弥次ヶ湯団地建設に伴う発掘調査で発見されました。これにより，薩摩半島では古墳がほとんど確認されていなかったため，古墳築造の空白地域を埋める成果として注目されました。ただし，弥次ヶ湯古墳を築造した人々の集落は見つかっていませんでした。そこで，平成 30 年度から発掘調査をおこなったところ，50 基を超える竪穴建物跡が姿を表したのです。今後は，弥次ヶ湯古墳と古墳時代集落の関係性を明らかにする必要があります。

古墳時代の敷領遺跡

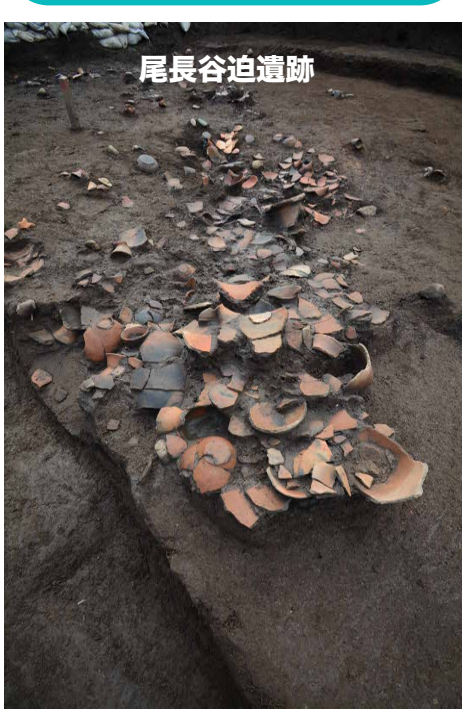
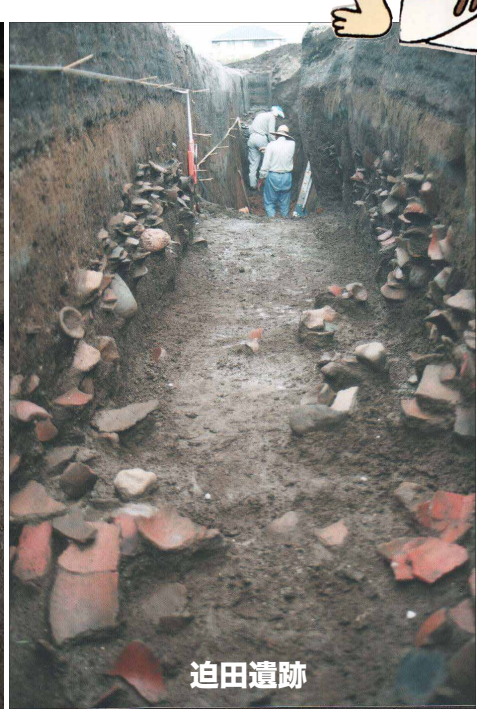


敷領遺跡の土器捨て場

敷領遺跡では，平成 30 年度の調査で，大規模な土器捨て場がみつかっていました。この土器捨て場は，調査区 1 の西側に帯状に広がっていました。今回の発掘調査によって，この土器捨て場がさらに北にのびることがわかり，現場で幅約 10m，長さ約 60m におよぶ範囲に土器を捨てていたことが明らかになったのです。この土器捨て場は，指宿市で最大の大きさ（600 ㎡）です。



この土器を大量に廃棄する慣習は，錦江湾沿岸の古墳時代集落に共通してみられる特徴であり，特に指宿市内の遺跡では顕著です。南丹波遺跡では，約 200 ㎡の範囲に土器を捨てていることが発掘調査で明らかになっています。

当時の人々がなぜ土器を大量に廃棄したのかは明らかになっていません。今後の調査研究で明らかにしていきたいと思っています。

指宿市内の土器捨て場